



# 生命環境科学系

系長 久保田俊一郎

系紹介

広域科学専攻には、3つの系があり、生命環境科学系はその1つの系です。

5つの大講座（環境応答論, 生命情報学, 生命機能論, 運動適応科学, 認知行動科学）から成り立っていますが、実質的には、基礎生命科学, 身体運動科学, 認知行動科学の3つのグループに分かれて、研究・教育（前期および後期課程, 大学院）を行なっています。学外から2名の客員教授あるいは客員准教授をお迎えして、専門的な立場から講義を担当して頂いています。学内からは、他の系の教員が、系間協力教員として、研究指導を行なっています。また、学内の医科学研究所や生産技術研究所の教員が兼任教員として研究指導を行なっています。系やグループに分かれてはいますが、系間やグループ間の研究の交流、研究者の共同研究は盛んに行なわれています。

生命環境科学系は、生命に関して、分子レベルからヒトまでを包括して研究するきわめて学際的、先端的な大学院組織です。本系は、2つの21世紀COEプログラム（融合科学創成ステーション, 心とことば—進化認知科学的展開）が採択されていることから、生命科学の拠点の1つといえます。

教員の研究分野は生化学, 分子生物学, 細胞生物学, スポーツ医科学, 心理学, 教育学など多岐にわたっています。研究対象は、後述の博士論文や修士論文のテーマをご覧頂くとわかりますように、タンパク質, DNA, 細胞などの生命体の基本構成単位から、組織, 器官, 個体にいたる構造, 機能, 発生, 分化, 再生, さらに、ヒトの構造と機能, 心理, ヒトの疾患の解明（アルツハイマー病, 筋ジストロフィー症, 癌など）, 身体健康科学, 環境科学, 宇宙科学など, 多岐にわたります。各研究対象を深く掘り下げることに加えて、研究者間の共同研究で、領域横断的な視点から新しい生命科学の構築を目指しています。教育面では学生がそれぞれの研究領域で先端的な研究を遂行できる考え方と手法を身につけられるような体制を整えています。分子レベルから組織, 器官レベルの理解を積上げてヒトを理解する視点とミクロな生命科学を掘り下げて考える視点を兼ね備えた研究者あるいは人材育成を念頭におき、生命科学の先導的, 体系的知識および手法を身につけた研究者, 教育者の輩出を目指しています。

私は、多様性やその融合領域に創造的な研究が生まれる可能性が高いと考えています。その意味でも、本系は、大きな可能性を秘めています。志の高い諸君の参加を心より期待しています。